



学校飼育動物を 考えるページ

心の成長を手助けするために

全国学校飼育動物獣医師連絡協議会

<http://www.vets.ne.jp/~school/pets/> 「学校飼育動物」検索のこと

全国で学校の近くの獣医師が 動物飼育を支援しています

愛情を基本に科学的な視点を与え、弱いものを庇うことを教える

3年間学校獣医師の支援を受けて

平成14年3月・栃木県佐野市立船津川小学校5年生、男子

「獣医師の先生方、いつも、ぼくたちの船津川小のために、お忙しい中、授業をしていただき、本当にありがとうございます。」

ぼくは、3年生のときから先生方の授業を受けています。初めて先生方の授業をうけたとき「獣医さんってかっこいいな。」ということと、「命について、ぼくたちは、もっとしっかり考えていこう。」と強く思いました。

先生方は、「動物も人間と同じで1羽1羽、性格がちがうんだよ。」と、やさしく教えてくださいました。ぼくは、最初「本当かな?」と思いましたが、毎日、チャッピーとハッピーの2羽のウサギの世話をするうちに、そのことが、本当だということがとてもよくわかりました。

また、先生方は「心をこめて世話をすれば動物にも、その心が通じますよ。」ということも話してくださいました。このことを、ぼくは、今「本当なんだ。」と、強く感じています。船津川小には、ニワトリのキャラメルがいます。キャラメルはぼくが入学したころには、人を見るとにげるか、つつくことしかしませんでした。でも、今は、ちがいます。ぼくたちが小屋に近づくとよってきます。エサもぼくが手の平にのせてあげると、僕の手の平をつつかないように、上手に食べてくれます。それに、だっこも好きになりました。みんなのうでや、かたや、背中にものってうれしそうにしています。それを見て、ぼくは鳥のクチバシは、つつくためにあるのではなく、食べ物食べやすいように、とがっているだけなんだとわかりました。

それから、ぼくたちの心の中には、今はいない、ウサギのミルクと、インコのチッチのことが、大切にしまっけてあります。ミルクとチッチは、ぼくたちに「命」の大切さを教えてくださいました。ぼくたちは、とても悲しい思いをしました。みんなが泣いてしまいました。でも、だからこそ、今、生きているものを大切にしよう、一人一人が思うようになったのだと、ぼくは思います。獣医師の先生方が「前にいた白いの、何ていう名前だったっけ?」と、ミルクの事を聞いてくださったとき、ぼくは、心があたたかくなりました。死んでしまっても、ミルクは、みんなの心に生きていたと思いました。

ぼくたちは、獣医師の先生方が教えてくださったことを、大切に心と頭におぼえておきます。そして、これからも船津川小の生き物を、みんなで大切に、大切に、育てていきたいと思っています。

(一部省略) 協力：船津川小学校・社) 栃木県獣医師会